

12支のはなしの紙芝居

① もうすぐお正月しょうがつです。

「動物達どうぶつたちと一緒にしょうがつお正月を楽しく過ごそう。」

と神様かみさまが言いいました。

② 「だが、ただ集あつめるだけではつまらないな。

ふむ・・・、いい考かんがえがあるぞ。

早はやく来きた動物どうぶつに、りっぱな役目やくめを
あげることしよう。」

③ 神様は、こいう言いました。「お正月の朝あさ、

山やまの上うえまでみんなで競きようそう争そうしましょう。

一番目から十二番目までに着ついた動物は毎年まいとし

こうたいで王様おうさまの仕しごと事をします。」

④ 「一番^{いちばん} は ぼくだ！」 さるが 木の上^{き うえ}から
叫^{さけ}びます。「早起^{はやお}きなら 僕^{ぼく} が 一番^{いちばん} だよ！」
鶏^{にわとり} は 羽^{はね} を ばたばた します。

⑤ ところが 猫^{ねこ} は 昼寝^{ひるね} を している うちに
日^ひ日^{にち} を 忘^{わす}れて しまいました。「神様^{かみさま} の
ところ^いに 行くのは、お正月^{つき}の 次^{つぎ} の 日^ひだよ。」
と 鼠^{ねずみ} は うそ を つきました。

⑥ おおみそか になりました。「ぼく は 足^{あし} が
おそいから、もう 出^でかけよう。」 のそりのそり
歩^{ある}き出した 牛^{うし} の 背^{せなか}中^{なか} に こっそり ねずみ
が 登^{のぼ}りました。

⑦ 「うふふ。^{ある}歩かなくても ^{うし}牛さん が ^{はこ}運んで
くれるぞ。らく だなあ。」 ^{うし}牛 は ^{ねずみ}鼠 を
^の乗せて ^{やまみち}山道を ^{いっしょう}一生けんめい ^{ある}歩いて ^ゆ行きます。

⑧ ^{あさ}朝 になりました。^{うし}牛 の ^{せなか}背中から ^{ねずみ}鼠 が
ぽんっと おりて ^{かみさま}神様 の ^{まえ}前に 行きました。
^{かみさま}「神様！ ^{しんねん}新年 あけまして おめでとう
ございまーす！」

⑨ 「やあ、おめでとう。 ^{いちばん}一番 は ^{ねずみ}鼠 か。」
^{つぎ}次に 牛 が 神様 の 前 に 行きました。
「やあ、 ^{にばん}二番 は ^{うし}牛 だな、 よしよし、よく
がんばったなあ。」

⑩ ^{うさぎ} 兎 と ^{とら} 虎 も走っています。虎 が 兎 を
^お 追いかけています。「ひゃあ！こわいよ。」
^{うさぎ} 兎 が ^{くさ} 草 の ^{なか} 中に ^{かく} 隠れました。そして
^{とら} 虎 が ^ご ゴールイン ^{るいん} しました。
^{とら} 虎 が ^{さんばん} 三番、^{うさぎ} 兎 は ^{よばん} 四番 になりました。

⑪ 「^{いちばんはや} 一番早くて えらい の は ぼくだ。」^{たつ} 辰
は ^{くも} 雲の上から ^{うえ} でてきました。^{へび} 蛇 も
にゆるにゆると ^{やま} 山の上へ ^む 向かっています。

⑫ ^{たつ} 辰 は 言いました。「^{へび} ぼく は 蛇 に
^ま 負けたくない！」^{たつ} 辰 は ^{いそ} 急いで ^{やま} 山の上
に 行きました。
^{たつ} 辰 は ^{ごばん} 五番、^{へび} 蛇 は ^{ろくばん} 六番 になりました。

⑬ ^{ひつじ}羊 と、^{うま}馬 は 一緒に 歩いています。^{ひつじ}羊 は
言いました。「^{ぼく}は ^{おおかみ}狼 が ^{こわい}んだ。」
^{うま}馬 が 言いました。「^{しんぱい}心配 は いらぬよ。
^{ぼく} が ^{ひづめ}で ^{けとば}して やるから。」

⑭ それ を ^き聞いて ^{ひつじ}羊 は ^{あんしん}安心しました。
^{ひつじ}羊 と ^{うま}馬 は ^{なかよ}仲良く ^{やま}山の
上 に ^つ着きました。

⑮ 「^{うま}馬くん。お^{さき}先に どうぞ。」

「ありがとう。」

^{うま}馬 が ^{ななばん}七番、^{ひつじ}羊 が ^{はちばん}八番 に なりました。

①⑥ 「コケコッコー。」 ^{にわとり} 鶏 は ^{いそ} 急いでいます。

^{はね} 羽 を ^{はし} ばたばた させて ^い 走って 行きました。

^{やまみち} 山道 で、^{いぬ} 犬 と ^{さる} 猿 が けんか を しています。

①⑦ ^{にわとり} 鶏 は けんか を とめました。

「みんな で ^{いっしょ} 一緒に ^い 行こうよ」

でも ^{さる} 猿 は ^き 木に ^{のぼ} 登って しまいました。

「いやだよ！ ^{ひとり} ぼく は ^い 一人で 行くよ！」

①⑧ ぴょーん。 ^き 木 の ^{うへ} 上 から、^{さる} 猿 が ^{かみさま} 神様の ^{まえ} 前に

^と 飛びおりました。 ^{いぬ} 犬 と ^{にわとり} 鶏 は、あわてて

走りました。 そして 一緒に ^{かみさま} 神様 の ^{まえ} 前に

^つ 着きました。

①⑨ 「^{さる}猿 ^が ^{きゅうばん}九番。」

「^{にわとり}鶏 ^が ^{じゅうばん}十番、 ^{いぬ}犬は ^{じゅういちばん}十一番じゃ。」

犬 ^が 神様 ^に 聞きました。

「でも、^{かみさま}神様。 ^{にわとり}鶏 ^{くん} と ^{ぼく}は、

一緒に ^っ着きましたよ。」

すると 神様 は 言いました。

②⑩ 「^{さる}猿 の ^{つぎ}次 ^が ^{いぬ}犬だと、けんか ^になる。

だから ^{あいだ}間に ^{にわとり}鶏 を おきましょう。」

^{さる}猿 は はずかしくて ^{かお}顔 ^が 赤く なりました。

^{いぬ}犬 も はずかしく なりました。

21 その時、^{とき} 猪 ^{いのしし} が ものすごい スピードで
走って きました。

「間違えて ^{まちが} 違う山に ^{ちが やま} 行ってしまったんだ。」

「あはは。猪 ^{いのしし} が ^{じゅうにばんめ} 十二番目。

これで、^{ぜんぶ} 全部 ^き 決まったな。」

22 こうして ^{じゅうにひき} 十二匹 が、^{じゅんばん} 順番 に 毎年 動物
の 王様 の 仕事を すること になりました。

^{ほか} 他 の ^{どうぶつたち} 動物達 も やって来 ^き ました。

^{かみさま} 神様と一緒に、楽しいパーティー が ^{はじ} 始まりました。

23 でも ^{ねこ} 猫は とても ^{おこ} 怒っています。

なぜか わかりますか？ ^{ねずみ} ねずみ が ^{ねこ} 猫 に
うその日 を 教えた からです。だから

^{いま} 今でも ^{ねずみ} 鼠を ^み 見ると、すぐ おいかけます。